

令和7年度第1回循環型社会推進会議 議事要旨

1 日 時 令和7年11月26日(水) 14:00~16:00

2 場 所 城南衛生管理組合 事務所棟 大会議室

3 出席者

(委員)

郡嶋孝委員、北川秀樹委員、岸敬子委員、嵩繁行委員、原保彦委員、渡邊桂子委員、生駒智史委員、八木英夫委員、家村咲栄委員、高月裕子委員、岩瀬剛二委員、森川英二委員、松峯茂委員、田邊晴美委員、山下正則委員、谷口浩一委員、岡崎朋二委員、梶原哲郎委員、中村浩二委員、奥山英高委員

(事務局)

山本晃治総務部長、川島修啓施設部長、橋本哲也総務部次長、五十嵐正和循環型社会推進課長、別所尚紀広報協働課長、川戸辰也施設課長、福山さやか循環型社会推進課主幹、森田千絵広報協働課主幹、園田真里子施設課主幹、宇治田唯循環型社会推進課主事

4 議事次第

1) 開会

2) 総務部長あいさつ

3) 議事

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) これまでの経過

(3) ごみ減量施策に係る提言をふまえた取組の進捗について
～市町および組合の状況～

4) その他報告事項

5) 閉会

5 会議概要

1) 会議の開催にあたり、総務部長から挨拶がなされた。

城南衛生管理組合総務部長の山本でございます。専任副管理者の野村が体調不良のため、欠席をしておりますので、代わりにご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、この度は大変お忙しい中、循環型社会推進会議の委員にご就任いただきますとともに、本日は、令和7年度の第1回会議にご出席いただき誠にありがとうございます。

最初に、郡嶋委員長、北川副委員長をはじめ昨年度の委員の皆さまには、提言を

おまとめいただき、心からお礼を申し上げます。昨年度末に提言をいただきましてから、この間、本日も委員として参加いただいております構成市町の担当課長さんたちと協議を重ね、様々なごみ減量施策の取組を進めて参りました。本日は、その取組状況をご報告させていただきますとともに、さらに委員の皆さまのご意見を頂戴し、より効果的な取組にしていきたいと思いますと考えているところでございます。

委員の皆様には忌憚のないご意見と、新たな視点からのご提案などを頂戴できればと考えておりますので、活発なご議論をお願い申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2) 委員の互選により、郡崙委員が委員長、北川委員が副委員長に選出された。

3) 事務局より、昨年度の循環型社会推進会議等と、その内容が「ごみ減量施策に係る提言」として取りまとめられた経過についての説明が行われた。

4) 議事(3)について組合及び各構成市町より、資料に基づいた取組内容の説明があった。その際に出た主な意見は次のとおり。

【宇治市】

- ・古紙回収日程表の裏面に雑紙リサイクルについての記事を掲載したとあるが、裏面でも目にとまるのか。
→古紙回収日程表の裏が白紙だったため、紙ごみ対策として古紙回収と関連付けて掲載した。住民の皆さんに見ていただけていると期待している。
- ・リチウムイオン電池が入っている品目名は周知しているか。
→これまで小型家電を拠点回収していたが、年明けから新たに充電電池回収箱を設ける。対象品目も含め、今後も引き続きいろいろな方法で周知を図る。なお設置開始の際は品目名を載せたチラシを配布する予定。
- ・エコアクションポイントのメニューにキエー口の購入とあるが、どういう範囲で付与されているか。
→キエー口の拡充を目指すため、なるべく広い形でポイントを付与している。
- ・キエー口も含め住民への広報周知が一番の課題。どのように周知していくかが大事。
- ・環境学習用に作った啓発冊子を他市で配ってもらおうとしたら、授業時間に余裕がなく学校のカリキュラムに入るのが難しかった。なにか工夫はしているか。
→小学4年生に対し環境学習を行っている。今年度はほぼすべての学校を対象に行った。宇治学の中で座学1時間・実演1時間で組んでいる。
- ・議会と市民の集いで、立命館宇治高校の高校生がいろいろな提言を行った。昨年度の推進会議ワークショップの取組が活きているのではないか。

【城陽市】

- ・外国人の方向けに You Tube やごみ出しチラシ、パンフレットを国際交流協会と協力して多言語で作成しているのが特徴的。外国の方もそういったものを必要としておられると思う。

→住んでおられる方が多い言語を中心に作成している。

【八幡市】

- ・スマート・エコ祭へ大人や子ども、市長も一緒に参加された。また出前講座として全公立幼稚園で紙芝居とごみ分別体験をする取り組みを長年継続している。ごみ分別の大切さを伝えている。
- ・八幡市はカラス被害対策として、鷹の目を印刷したパネルをごみネットに貼り付ける実証実験をしている。ただ使い方の周知が住民にできておらず、パネルが裏返っていることがあった。確かな効果を得るために周知も必要だと感じた。
- ・啓発は「おにぎり一個」など具体的かつ「手で持ったり触れたりできる」体験がよい。
- ・プラー括回収開始にあたり自治会を中心に説明を行っているが、自治会に入っていない人に対する取組はあるか。

→（八幡市）まずは自治会に啓発をするとともに、毎年度末に各世帯に配布している啓発チラシで、イラストを使って分別が変わる旨を分かりやすく伝えるよう現在準備している。また分別に関しては5か国語のチラシや優しい日本語のチラシも用意し、転入関係書類に入れてもらうようにもしている。

（宇治市）自治会長の負担を減らすため、市政だよりや HP で全市民対象に周知を行っている。

（城陽市）事前説明会を開催した。出前講座も2件要望があり、引き続き HP で随時受け付ける旨を周知して、希望者に説明を行っている。

【久御山町】

- ・久御山町の公団のごみ収集は棟ごとで、いつでも廃棄できるようになっている。曜日による分別がなく自治会加入者も少ないので、チラシの全戸配布はしているが、分別の周知が難しい。

【宇治田原町】

- ・宇治田原町と宇治市の家庭ごみの排出量の数値差が大きい。

→環境省が行っている実態調査の数字。分別はする人しない人、両極端というのが印象。数字を比較するよりも、その市町に分別協力を積極的な人がいる割合が大切と考える。

→ごみ処理基本計画等の数値は達成可能な目標数値である。なお減量しても処理費用が下がらない可能性も高い。工場を維持する固定費が下がらないため、稼働率が悪くなるだけ。目標値を定める場合はごみの量が減れば費用下がるような目標値を検討する必要がある。その点を含め議論を進めたい。

【井手町】

- ・ごみの問題としてよく話題に上がるのは、ごみステーションの設定場所について、啓発方法について。啓発は大人へは周知できており、今度はドライコンポストを活用した子どもから大人へ向けての啓発が進んでほしい。

【全体】

- ・資料 39 ページの売却単価は収入であり、ペットボトルのキャップ等、収集品目でないものも売れている。処理コストとの兼ね合いもあるが、一定金額以上で売却できるなら収集品目にするなど議論すべきでは。また可燃ごみの中に鉄とあるが、なぜ鉄が出てくるのか。
 - 可燃ごみの中の鉄は、分別できていない混入ごみ。コンベアなどで取り出した大型の鉄は売却している。
- ・缶など売却できるものはスーパーの資源物回収ボックスに持っていきよりも、市の回収に出した方が市の収入につながるなら市に出した方がいいのか。
 - 一概にどちらとは言えないが、自治会の資源化奨励金の対象になったり、自治会やPTAの収入にもなったりするので検討していただいても。
- ・井手町は町で古紙回収しているとの説明があった。私の住んでいるところは回収業者が減り、古紙回収のない自治会もある。段ボールなどが可燃ごみの日に出されていることもあるため、役所が回収してくれると助かる。
 - 民間業者の廃業によりボトルネックになってしまっている実情もある。京都市は古紙回収を組合としてまとめた。先を見通し、システムとしてリサイクルシステムをとらえる必要がある。ヨーロッパでは 3R のうちリデュースに重きを置くが、日本はリサイクルが先。減量化が先に立つことは少ない。リサイクルは消費の免罪符になってしまう。大量生産大量消費のリニア経済を視野に入れ、考える必要がある。リサイクル社会と循環型社会は別物であることを理解することが、我々がいま直面している日本の廃棄物問題。企業は技術で減量できるが、市民はどう工夫するかが重要。
- ・「さすてな京都」などの先進地視察を各自治体で企画してはどうか。

（議事（3）まとめ）

- ・提言に取り上げられたテーマに沿い、ごみの分別品目や方法はもちろん、啓発方法、資源としてのあり方など市町ごとに工夫しながら課題へ取り組んでいる。
- ・今後は取組の進捗管理と共に目標をどこに置くのかを検討する。

- 5) その他報告事項として、今後の予定について事務局より説明があった。
- ・次回会議は年度末に 1 回開催予定。
 - ・議題として、今回会議で出た意見を踏まえ取り組んだ内容報告を行うとともに、本年度の取組評価、また次年度以降の取組展開を検討する。
- 手段だけでなくこういった目標をたてるのかも議論する必要がある。